



厚生労働省

ひと、暮らし、みらいのために  
Ministry of Health, Labour and Welfare

# 「出産なび」について

厚生労働省 保険局

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan



あなたにあった

# 出産施設を「出産ナビ」探せるサイト

- 2024年5月30日公開 -



<https://www.mhlw.go.jp/stf/birth-navi/>

**妊婦の方々が、費用やサービスを踏まえて適切に出産施設を選択できる環境を整備するため、全国の出産施設に関する情報の提供を行うWebサイトを厚生労働省が開設・運営します。**

## 掲載内容

出産施設ごとの特色・サービスの内容等に関する情報と、出産費用等に関する情報を併せて公表します。

### （施設の概要）

施設種別、病床数、年間の分娩取扱件数、専門職の人数など

### （サービスの内容）

助産師外来、院内助産、産後ケア、無痛分娩の有無など

### （費用等の情報）

平均入院日数、出産費用の平均額など

## 掲載施設数

全国2,112施設の情報を掲載（2024年12月6日時点）

※年間分娩取扱件数が21件以上の施設の約99.9%に加え、20件以下の施設も任意で情報掲載



トップページから、エリアや条件を指定して出産施設の検索を行えます。

条件に該当する出産施設の一覧が表示されます。



それぞれの施設の詳細情報が個別ページで表示されます。

施設の概要	助産ケア	付帯サービス	費用等
-------	------	--------	-----

### 施設の機能

- ・種別
- ・周産期母子医療センターの指定
- ・NICU病床数
- ・産科病床数
- ・入所可能ベッド数
- ・産科区域の特定

### 専門職数

- ・産科医師数
- ・小児科医師数
- ・助産師数
- ・助産師数のうちアドバンス助産師数
- ・看護師・准看護師数

### 年間の分娩取扱件数

- ・経膈分娩
- ・帝王切開での出産

### 入院中に実施される検査

- ・新生児聴覚検査の実施の有無
- ・自施設での実施がない場合の新生児聴覚検査可能施設の情報提供
- ・小児科医師による新生児の診察
- ・風疹抗体価が低い産婦に対する風疹含有ワクチンの接種(出産後の接種)

### 出産後の健診（産婦健康診査）の実施

- ・2週間健診(産婦健康診査)
- ・1か月健診(産婦健康診査)

### 妊娠期・分娩期・産褥期のケア

- ・助産師外来
- ・院内助産
- ・入院中の授乳支援
- ・授乳支援を行う外来(退院後)

### 産後ケア

- ・宿泊(ショートステイ)型
- ・通所(デイサービス)型(個別型)
- ・通所(デイサービス)型(集団型)
- ・居宅訪問(アウトリーチ)型

### 分娩に関わること

- ・立ち会い出産実施(経膈分娩の場合)
- ・無痛分娩
- ・無痛分娩の麻酔の方法
- ・無痛分娩麻酔管理者の資格
- ・JALAサイトへの掲載
- ・無痛分娩の対応可能時間
- ・無痛分娩を行う際の陣痛誘発の有無

### 産後の過ごし方に関わること

- ・母子同室実施

### 居室に関わること

- ・個室
- ・個室利用の際の差額費用支払いの必要性

### その他のコンテンツ



妊娠・出産に関してお悩みの方へのリンク集



ユーザーアンケートフォーム



広報物ダウンロードページ



# 『出産ナビ』の掲載状況・アクセス状況

## 分娩取扱施設の掲載状況

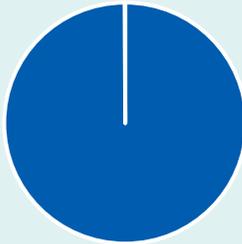
※2024年12月6日時点

掲載施設数

**2,112**

(開設時から+69)

掲載同意割合



**99.9%**

病院  
100%

診療所  
100%

助産所  
98%

※掲載同意割合の分母は2023年度に21件以上の分娩取扱実績のある施設のうち、出産育児一時金の直接支払制度を利用しており、分娩取扱を継続している施設  
※出産ナビにはこの他、年間分娩件数が20件以下の施設及び直接支払制度を利用していない施設も任意で掲載  
※掲載同意には掲載原稿の確認中の施設を含む

## 機能別掲載同意施設数

特定機能病院	総合周産期 母子医療センター	地域周産期 母子医療センター
82 / 82	112 / 112	290 / 290

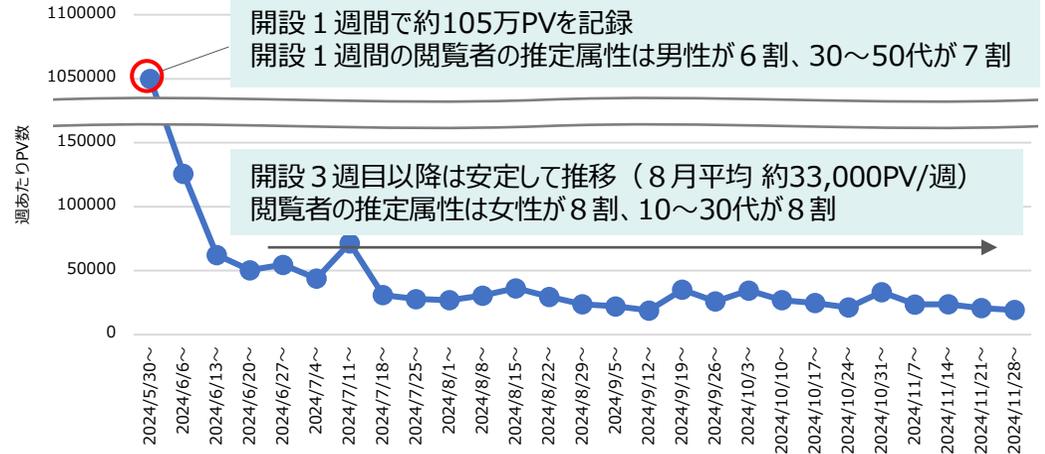
※分娩取扱のない6施設  
(がんセンター等)を除く

※分娩取扱のない6施設  
(こども病院等)を除く

## 週あたりPV数の推移

※2024年5月30日(開設日)～12月4日

### 開設から6か月で約200万PVを記録



## 都道府県別アクセス状況

都市部を中心に全国からアクセスあり

※2024年6月13日～12月4日  
(開設3週目以降)



## ユーザーの声

- 近くの施設の具体的な出産費用などが施設HPに掲載されていなかったため、「出産ナビ」でおおよその費用が分かって良かった。
- 現在妊活中のため、「出産ナビ」で下調べできたので助かった。
- 施設内部などの写真が見たい。
- サービス内容や出産費用などを比較検討できる機能を追加してほしい。
- 出産時だけでなく、産前や産後に関する情報も掲載してほしい。

# 『出産ナビ』の周知広報

妊産婦やパートナーの方々に『出産ナビ』を活用いただくため、様々な方法で周知広報に取り組んでいる。

## 『出産ナビ』開設時のローンチイベントの開催

『出産ナビ』開設日(2024年5月30日)に  
医師・助産師・インフルエンサー等を招いたローンチイベントを開催  
(各種メディアにおいて紹介)



ローンチイベントの様子



Nスタ (2024年5月30日放送)



news zero (2024年5月31日放送)

## 各種メディア等を通じた周知広報

- ・妊婦をターゲットとした媒体での特集記事の掲載
- ・企業HPへのバナー掲載
- ・厚生労働省LINE公式アカウントでの発信
- ・関係団体等への周知依頼 等



たまひよ(2024年7月10日掲載)



アカチャンホンポトップページ



マイナビ子育て(2024年6月3日掲載)



厚生労働省LINE公式アカウント

## 市区町村や薬局・ドラッグストア等における周知広報

市区町村の母子保健窓口やホームページ、薬局・ドラッグストアの店舗やアプリ等において『出産ナビ』の周知活動を実施

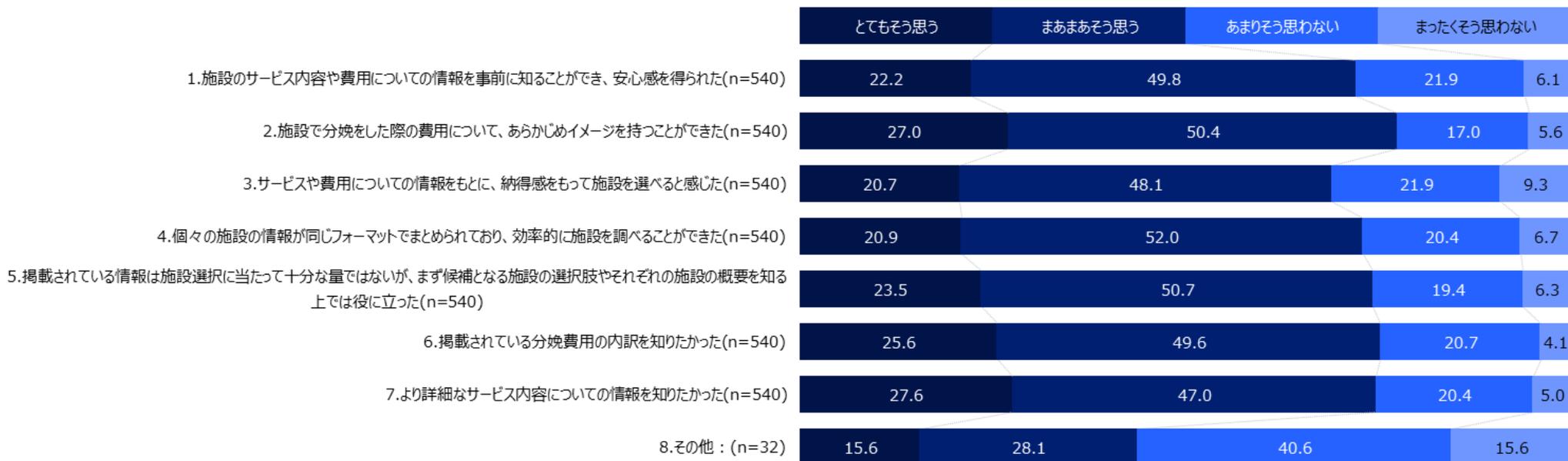
## 周知広報素材の公開

『出産ナビ』のサイト内にポスター・バナー等の広報物を掲載  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/birth-navi/download.html>

# 「出産ナビ」を利用した感想

- ▶ サイト（出産ナビ）を利用した感想は、安心感、納得感、効率性という側面から、多くの項目において肯定的な回答の占める割合が高かった

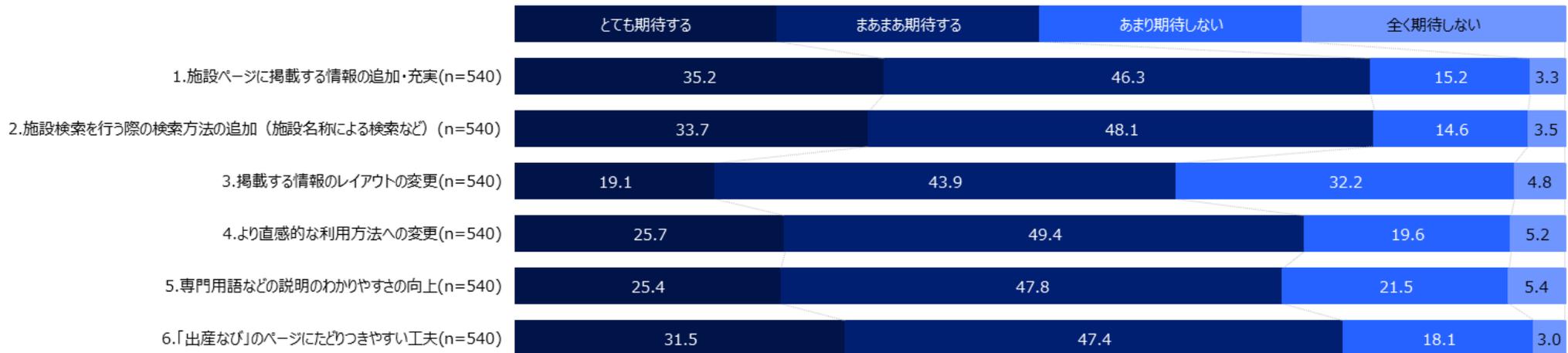
図. 出産ナビの利用に対する感想（4段階で評価）：出産ナビを利用したことでどのように感じたか



# 「出産なび」への今後の期待

- 情報の追加、検索の機能、サイトへのアクセス向上は、出産なびに対する今後のリニューアルの期待として、比較的高い傾向にあった

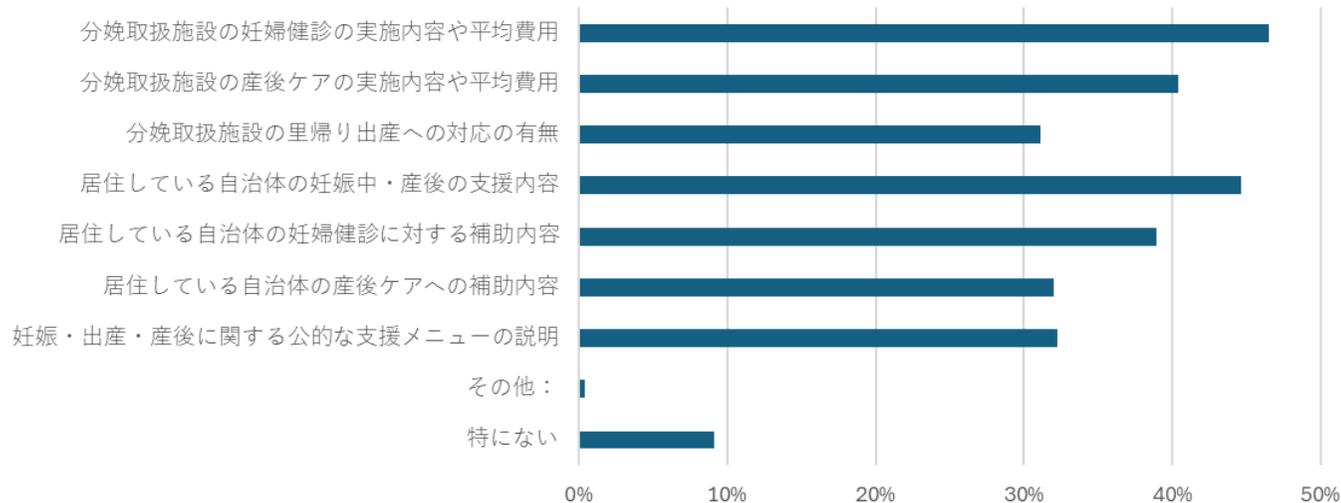
図. 出産なびに対する今後のリニューアルの期待（4段階で評価）



# 「出産なび」に今後追加してほしい項目

- 「出産なび」に追加を希望する項目として、妊婦健診と産後ケアの実施内容や平均費用、自治体の支援内容・補助内容の掲載が挙げられた

図. 出産なびの項目について、今後追加してほしい項目（複数回答）



## 第5回までの検討会における主なご意見

### （「出産なび」について）

- 「出産なび」により、出産費用の見える化が推進され、出産を希望による人にとって情報を入手しやすくなったと考える。
- 「出産なび」は産科医療機関の96%がしており、まだ公開されたばかりであることから、「出産なび」により妊産婦の行動がどう変わっていくのかをしっかりと優先して検証して、正常分娩の保険適用の議論で引き続き話していければと考えている。
- 出産費用だけでなく、妊娠時や産後の支援においても実態の把握を行い、見える化をした上で、費用負担とのバランスの観点からも検討が必要ではないか。
- 今後議論を行うに当たっては、見える化は極めて重要。その上で、保険適用範囲や負担の在り方、また、異常分娩の定義の明確化等、様々な論点について議論をして、さらには妊婦の方の経済的負担の軽減にいかにつなげていくかということが極めて重要である。
- 出産費用について、従来から大きな地域格差が存在すること、また分娩機関ごとの費用内訳がよく分からないということを伝えている。直近の「出産なび」において一定の情報は示されているが、まだ見える化は不十分。公的な保険制度の対象とどうかを議論するにあたり、より詳細なデータを提示して、地域格差とその要因等を明らかにすることは必須であり、検討のスタートラインとすべきだと考える。
- 「出産なび」により、地域にどのような分娩施設があるのかという点については見える化ができたと考えている。しかし、これだけではどのような提供内容があって、その内容に対する費用が幾らなのかといった詳細までは分からない。
- 「出産なび」の引き続き周知を図るとともに、アンケート調査やユーザーの声を踏まえて、掲載内容などさらなる工夫が必要である。
- 「出産なび」がいろいろな視点で使えるようなサイトにしていくために、項目を増やして充実してほしい。

### （妊娠・出産に関する知識や情報の提供について）

- 第2子出産のときに助産院で、お産の進み方などを教えてもらったのがすごくありがたかった。逆に、第1子の無痛分娩のときは、紙では配られたが教えていただく機会がなく、初めての出産でかなり戸惑いがあった。そういった産前の情報提供をしていただけたらうれしい。
- まだ妊娠5か月になったばかりだが、病院や自治体からこれからの流れについて簡単な用紙はいただくが、具体的に私が今から何をして、何を考えて、何を幾ら、お金の部分も物の部分も何をどう準備すればいいのかというのが分からず、とても不安で、SNSは調べれば調べるほど情報は得ることはできるのだが、それが正しい情報なのか確認するすべも分からなかったり、調べれば調べるほど沼にはまってしまうような感覚が今はある。正しい情報を最低限しっかり伝えていただけたら、すごく安心できると思う。
- つわりがどのくらい重いのか、妊婦期間はどんなふうにご過ごすのか、働けるのか、全く分かっておらず、対処法も分からなかったのが不安だった。会陰切開が麻酔なしで行われるとネットで書いてあって、本当に皮膚を麻酔なしで切るのかという不安がものすごくあった。
- 自治体の両親学級は平日の午前中しか開催がなく、限られた土日の枠も予約の争奪戦に勝てるのかどうか分からず不安。自分の通っている産院でも両親学級の開催がほとんどないので困っている。
- 妊娠が分かってから生まれるまでの行政の支援はほとんど記憶がない。母子手帳の交付の際に物すごい量の資料を頂いて、取りあえず捨ててはいけないのではないかと感じて全部ファイリングして大切に抱えて帰ったというのが唯一の接点かなという感じ。

## 第5回までの検討会における主なご意見

### (出産費用の情報について)

- 金額について、最後に請求書が来てみないと、本当に自分が幾ら払うのかはよく分からないまま退院の日を迎えたというのが正直なところで、このぐらいで前後しますよというようなふわっとした説明で、何が起きたら上がって、何が起きたらそんなに上がらないのかということも、当事者としてはよく分からないままだった。
- 当事者としては、妊娠が分かった段階から出産のその日まで、負担ができるだけ少なく、なおかつ、費用が明確な状態で安心して産むことのできる環境になっていくとうれしい。
- 「出産ナビ」のユーザーの声として、きちんとした情報に基づいて選択できる環境整備が求められており、さらなる見える化が必要。
- 出産にかかる費用を早期に妊婦が把握できるように、分娩施設も説明機会を極力早期に設けてほしい。また、何に幾らかかっているのかという費用の内訳を透明化し、妊婦が自身の経済状況やニーズに応じてサービスを取捨選択できるようにしてほしい。
- 分娩費用の情報収集は、施設のHPでミニマムで幾らというような書き方だったので、何となくこれぐらいかなというところと、SNSで見た情報ぐらいだった。
- 出産費用は、その場になってみないと分からないというので、この処置をやるから幾ら上がりますと言われても、言葉の意味がまだ100%理解できていないというのが正直なところで、不安は募る。
- 全く想定額が算出できなかったもので、産んでみて結構高いと思ったという感覚だった。
- 妊娠・出産に関わるサービス、費用に関する情報提供の在り方について、非常に反省すべきところがある。今後は行政とも協力しながら、ワンストップで全て分かるような形での検討をさせていただきたい。
- 情報収集の困難さ・不明瞭さについて、各種制度や妊娠中から産後にかかる費用の透明化を希望する声があった。
- 何にいくら費用がかかるのかを透明化した上で取捨選択できるようにすると、妊婦が受けたいサービスによって選ぶことができる。
- 不安なところは、やはりお金がどこまでかかってくるのかというのがホームページを見ても正直分かりにくい。目安は書いてあるが、実際に自分の処置が何が必要になってくるのか、自己負担額が幾らになるのかが分からず怖い。
- 妊産婦の方のヒアリングからも、また自分自身の出産の時を思い出しても、分娩施設から出産に当たっての提供内容をパッケージで示されるだけで、その中の詳細は個別に選択できなかったことを考えると、選択肢があるようでないような状況なのかなと感じた。

# 第5回までの検討会における主なご意見

## (妊婦健診の情報について)

- 「出産ナビ」等を活用して妊婦が効率的に、かつ納得度の高い選択ができるように、全国各自治体ごとの公費補助額と施設ごとの健診にかかる費用を一覧で可視化できるようにしてほしい。
- 妊婦健診にかかる費用の見える化は不可欠。
- 今後、「出産ナビ」のアップデートに当たり、出産費用だけでなく健診の費用についても、それぞれの病院でいくらかかるのか、例えば何区だったらどのぐらいの補助があり、補助と実際の額のギャップはこのぐらいなので、持ち出しは大体このぐらいの金額になるというところまで分かっていると、出費がかさむ出産の前後にどのぐらいの費用が必要なのかというのが分かり、非常に安心感につながると思う。
- 実際に妊娠が分かって病院に受診すると、そこで1万円ちょっと払ってくださいというようなことがあり、そこから産院を決めて通い続けると毎回母子手帳をもらうまでは数千円持ち出しがあり、妊娠が分かってから1~2か月で数万円が自分のお財布から飛んでいったというような経験があった。これから出産費用もかかるし、教育費もかかるという中で、一番最初の段階でそれだけお金が取られると、妊婦さん、これから経済的な不安がすごく大きくなるなということ個人としてもすごく強く体感したのを覚えている。
- 想定と実際の支払額にギャップがあるのは、出産費用だけでなく、健診費用についても同様なことは明らか。
- 妊婦健診では、交通費や公費補助対象外の健診費など想定外の自己負担が発生している。

## (産後ケア事業の情報について)

- 多くの母子保健事業があるが、それが妊産婦に伝わっていないということが当事者からの意見で多くあったので、取組を余すことなく活用できるように、事業へのアクセスといったものの理解を深める取組を自治体としては積極的にお願いしたい。
- 将来的には、産後ケアの施設についても「出産ナビ」のような形で、近くの産後ケア施設がどういうところかや受入れの数を一覧で見ることができれば、安心して産後ケア施設を探せるようになってくる。
- 自治体から母子手帳をもらうときに産後ケアの説明を受けたが、それ以降の周知はまったくなかった。健診や退院前など、情報が必要なタイミングでリーチすることが重要。施設の充実と認知の充実を進めてほしい。
- 産後ケアを含め、支援策を分かりやすく周知、活用しやすくすることが重要。
- 産後ケアとか産後ヘルパーに関しては、インターネット上にさえ情報がない。近くの産後ケアの施設を調べようと思っても、口コミもなく、どこに行ったら安心かすら分からない。産後ケアの施設もいろんな特色があるので、ニーズに応じた情報提供をしていただくと良い。
- 産後ケア事業のサービスがより利用しやすくなって、産後のメンタルケアや育児相談を気軽に、かつ継続的に受けやすい環境を整えてほしい。

# 「出産ナビ」について

## これまでの運用状況

- 「出産ナビ」は、年間分娩取扱件数が21件以上等の要件を満たす施設のほぼ全て（99.9%）に掲載の同意をいただく等、全国の2,112施設の情報に掲載している。
- 令和6年5月30日の開設以降、200万超のPVがあり、現在は若年女性と推定されるユーザーを中心にアクセスされている。
- 各種メディアを通じた広報のほか、自治体や薬局・ドラッグストア等と連携する等、様々な手法で周知に取り組んでいる。
- 研究班（※）や「出産ナビ」サイト内に設置したアンケートフォームによれば、安心感、納得感、効率性といった観点から一定の評価を受けている。
- また、分娩取扱施設に関する情報の充実や検索機能・サイトアクセスの向上、妊婦健診・産後ケアに関する情報の掲載などについて要望が寄せられている。

※出産育児一時金の見直しを踏まえた出産費用の分析並びに産科医療機関等の適切な選択に資する情報提供の実施及び効果検証のための研究（令和6年度厚生労働行政推進調査事業補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）））

## 本日で議論いただきたい事項

- 妊婦が安心して出産できる環境を整備する観点から、「出産ナビ」に掲載する情報について、見直すべき点はあるか。
- 妊産婦の立場から、「出産ナビ」をどのように活用していくことが考えられるか。
- 医療提供者や相談支援者の立場から、「出産ナビ」をどのように活用していくことが考えられるか。
- 妊婦やそのパートナー、妊娠を考える方々などに対し、どのような周知・広報の取組が考えられるか。